



かがやき

～一人一人のウェルビーイング～

かんがえる
かんばる
やさしく
きたえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第5号

令和6年7月1日
文責：校長 今井大輔

鳴鼓っ子の心を見つめる教育週間

6月17日(月)～21日(金)は、鳴鼓っ子の心を見つめる教育週間で、様々なことに取り組みました。

全学年において道徳科授業の公開(授業参観)と懇談会、ピースバトン・ナガサキの皆さんによる平和の話、なづみ座の人形劇、2年生の芋さし、4年生の田植えなど、盛りだくさんの1週間となりました。

子供たちは、この1週間で「命の大切さ」や「友達への思いやり」「平和」「日頃経験できない体験」「地域の方の思い」など、多くのことを学ぶことができたと思います。これも、保護者の皆様や地域の方、各種団体の皆さんのおかげだと感謝しております。本当にありがとうございます。



毎日の登校の安全見守りや栽培活動、本の読み聞かせなどでお世話になっている鳴鼓っ子サポーターのみなさんを迎える会も行いました。子供たちの貴重な体験の手助けだけでなく、心も育てていただいています。会の中で、お互いに気持ちの良いあいさつを交わすことの大切さを再認識しました。



なづみ座の人形劇公演

初めて鳴鼓小になづみ座がやってきました。通常は、福祉センター等で活動されている皆さんです。会場が暗くなると、子供たちからは、歓声が上がりました。最初に可愛いハワイアンダンスの人形が登場し、1年生は大喜び。3話目の「三枚のお札」では、やまの動きや言葉に「そっち、そっち。」「だめ、だめ。」などの声が自然と出るほど人形劇の世界に入り込んでいました。とても楽しいひと時を過ごさせてもらいました。



平和への願いを込めて

6月14日(金)に折り鶴集会がありました。全校で平和への願いを込めて千羽鶴を折ります。1年生へは、パートナーの6年生が優しく教えてあげます。他学年は、折り紙の中に平和への願いを書いてから鶴を折ります。出来上がった千羽鶴は、8月9日の平和のつどいで献鶴されます。



長崎県学力調査

長崎県学力調査本校結果
<5年生> ()は県平均
国語科 : 68.2 (57.8)
算数科 : 76.8 (68.6)
<6年生>
理科 : 54.4 (53.5)

4月に実施された長崎県学力調査の結果が公表されました。上記の通り、本校の5年国語・算数、6年理科の全てで県平均を上回っており、落ち込みが少なくなりました。細かく分析すると、落ち込みが少なくなりました。今後、授業等で補強していきたいと思っております。

つばやき

先日、地域の方のお誘いを受け、大原野の神社参道の泥上げ作業に参加しました。作業に参加されていた有志は、主に左底シニア会の方であったが、この辺り一体の守り神というところもあり、久留里の方も参加されていた。午前中いっぱい作業するなかの重労働で、汗だくになって、階段脇の泥を除去していった。何度も登ったことのある参道であったが、このような作業のことを全く知らなかった。昨年のしめ縄作りや今回の作業など、自分が見えていない(知らない)所で無償で動いてくださっている人がいることを初めて知った。本当に頭の下がる思いである。知られていないところでの動きと云えば、学校現場でも意外とたくさんある。子供たちに、より効果的な学びとなるように、更に安心・安全な活動ができるように事前準備や打合せは、欠かせない。

例えば、遠足や宿泊学習などの校外活動。担当は事前に下見をして、子供と同じ活動をやっている。そして、気付きがあれば、コースや活動を修正する。実際にやってみることが、子供たちへの指導に生きてくるのである。

一番見えない所と言えば、日々の授業の準備である。小学校教員は、1日平均で授業を5単位時間行っている。1時間の授業の準備は、10分程度で済むこともある。この見えない下準備が報われるのは、子供たちが「うわーすごい!」や「よく分かった!」できたと嬉しく思える瞬間である。

先に述べた大原野神社への参道のこともだが、さまざまな場面で、「誰かが、準備や整備をしてくださっているのだな。」と気づける自分でありたいと思う。今日この頃である。

鳴鼓小は、コミュニティ・スクールになりました!

鳴鼓小学校は、今年度からコミュニティ・スクール（以下、C・S）となりました。C・Sとは、学校運営協議会を設置している学校のことをいいます。先日、第1回学校運営協議会が行われました。協議会の委員は、全員で15名です。地域の様々な団体の代表や学識経験者などから構成され、学校の経営方針や子供たちの育成に関することを熟議していきます。第1回の内容は、以下の通りです。

- ①学校運営協議会会則の説明と委嘱状交付
- ②ミライ on 図書館長 池田 浩先生の「コミュニティ・スクール」に関する講話
- ③令和6年度鳴鼓小学校学校経営方針の説明と承認
- ④情報交換会



C・Sになることで、どのように変わるのがみなさんにとっては気になるところでしょう。C・Sの大きな目的は、持続可能な学校や地域をつくることです。教職員は、人事異動で入替っていきます。しかし、地域の人（人材）は、継続しています。そこで、地域を基礎とすれば、子供たちへ安定した教育ができ、学校を中心として地域が活性化することができるのではないかと考えてつくられたものなのです。今後、回数を重ねるごとに子供たちや学校、地域の実態を出し合い、どういった取組ができるかを熟議していきます。今後、学校だよりやHP等を通してお知らせしていきます。

ウェルビーイングって何?

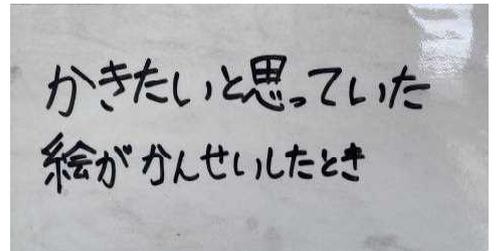
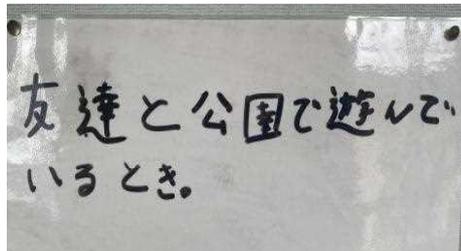
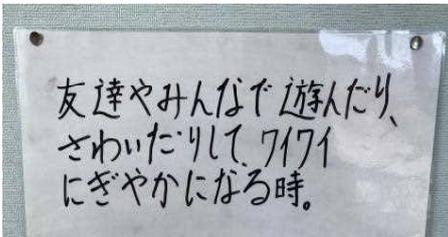
そもそも「ウェルビーイング」は、英語であるので日本語ではまるぴったりの言葉はありません。直訳すると「よいあり方」「よい状態にあること」となります。そこから「持続可能な幸せ」を意味します。要するに「よりよいあり方をおして幸せな状態にある」と言えるのでしょうか。

その「幸せ」という言葉は、とても抽象的な言葉です。おいしいものを食べたり、うれしい言葉をかけられたりするなどの同じ状況であっても「幸せ」と感じるかどうかは、人それぞれです。要は、その人の気持ちの持ちようが一番影響するわけですが、単純にそれだけではありません。ウェルビーイングについて調べてみると様々な要因があることが分かりました。詳しい話は、今後少しずつしていきたいと思っています。

今年度の学校経営方針にこのウェルビーイングを取り入れました。おそらく、C・Sにおいても大きく関わってくるキーワードになると思っています。

では、子供たちにとってのウェルビーイングは、具体的にどのようなことなのでしょう。本校の4年生の取組を少し紹介します。

4月当初から、4年2組の子供たちが、教室前の掲示板で「自分にとってのウェルビーイング」を自由に書く活動に取り組んでいます。



子供目線で、日常のウェルビーイングを見つけ、感じているようです。おそらく、友達の言葉を見て、「ああ、こういうことなんだ。こういう感覚なんだ。」と理解していつていることなのでしょう。

しかし、子供たちが幸福感を感じるためには、まずは大人からだと思っています。私たちも日々生活する中で、少しでも幸福感を味わいながら過ごしていきましょう!!